

2021年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年11月13日

上場会社名 株式会社ソフトフロントホールディングス
 コード番号 2321 URL <http://www.softfront.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 野田 亨

問合せ先責任者 (役職名) グループ業務推進室 室長 (氏名) 鈴木 雅博

TEL 03-6550-9270

四半期報告書提出予定日 2020年11月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日～2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	160	1.5	10		16		21	
2020年3月期第2四半期	163	32.1	111		110		119	

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 21百万円 (%) 2020年3月期第2四半期 119百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	0.79	0.79
2020年3月期第2四半期	4.57	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第2四半期	385	172	44.5	6.22
2020年3月期	340	143	39.8	4.94

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 171百万円 2020年3月期 135百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期		0.00		0.00	0.00
2021年3月期		0.00			
2021年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日～2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	280	3.6	7		8				

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

親会社株主に帰属する当期純利益に関しては、業績予想の算定が困難であることから、未定とさせていただきます。通期業績予想の算定が可能となった時点であらためて開示させていただきます。

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有

新規 社 (社名) 、 除外 2 社 (社名) 株式会社AWESOME JAPAN、株式会社ココロニ

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2021年3月期2Q	27,561,789 株	2020年3月期	27,461,789 株
2021年3月期2Q	97 株	2020年3月期	97 株
2021年3月期2Q	27,561,692 株	2020年3月期2Q	26,068,523 株

期末自己株式数

期中平均株式数(四半期累計)

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に掲載されている今後の見通し等の将来に関わる記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますので、本資料に全面的に依存した投資等の判断は差し控えます。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(重要な後発事象)	9
3. その他	10
継続企業の前提に関する重要事象等	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2020年4月1日～2020年9月30日）においては、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大のため、社会・経済活動が大幅に制限され、個人消費の著しい減少が、企業の生産活動にも大きな影響を及ぼしました。緊急事態宣言の解除後、経済活動は緩やかに再開されましたが、感染拡大は依然として高水準で推移するなど、未だ収束の目途が立たずに先行き不透明な状況が続いております。

当社グループにおいても、緊急事態宣言解除後も在宅勤務を継続するなどの感染拡大防止策を講じる一方で、働き方改革に伴う生産性の向上や業務の効率化を実践し、withコロナ、afterコロナの市場環境を見据えた営業活動を行っております。在宅勤務に対する関心の高まりから、当社グループの製品への注目が高まり、問い合わせ件数が増加し、引き合い・受注案件が順調に増加しております。このような事業環境に対応するために、今後はさらに積極的な事業展開を行ってまいります。

当社グループは、2019年4月より抜本的な事業構造改革を進め、2020年5月20日に発表した「新中期経営計画」に従い、今期（2020年4月から2021年3月まで）を「ビジネス改革期」と位置付け、既存事業を柱とした営業黒字体制を確立するべく事業基盤の強化に注力しております。具体的な施策として、株式会社ソフトフロントジャパンに経営資源を集中的に投下することにより、ボイスコンピューティングを中心としたコミュニケーション領域での事業拡大を図り、事業基盤の確立と収益化を進めております。その中心となる主力製品が、自然会話AIプラットフォーム「commubo（コミュボ）」及びクラウド電話サービス「telmee（テルミー）」であり、今後は、大規模化等市場ニーズに対応した事業展開を積極的に推進してまいります。

当第2四半期連結累計期間の事業活動により次の成果が得られております。

<commubo>

- ・新日本製薬株式会社による化粧品通信販売の注文受付コールセンターへのテスト導入
- ・キューアンドエー株式会社及びグループ会社のコールセンター事業に「commubo for コールセンター」を導入



**人と会話できるAIロボット。
深刻化する人手不足を
解決します**

<telmee>

- ・ITbookテクノロジー株式会社による環境・防災IoT「みまわり伝書鳩」のオートコールへの採用
- ・大阪府吹田市の防災向け自動応答サービスに採用、
その他複数の自治体による、緊急情報伝達システムでの採用



**電話業務を自動化、無人化。
短期間・低価格で
提供します**

以上の結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高160,619千円（前年同四半期比1.5%減）、営業利益10,312千円（前年同四半期は営業損失111,525千円）、経常利益16,870千円（前年同四半期は経常損失110,863千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益21,711千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失119,037千円）となりました。

売上高は前年同四半期比微減となっておりますが、前年同四半期の業績には、不採算事業の見直しにより既に解散した、株式会社AWESOME JAPAN及びデジタルポスト株式会社、さらに販売代理店の事業方針転換により事業規模を大幅に縮小した株式会社ソフトフロントマーケティングの売上高が含まれておりました。一方で、事業構造改革に基づいた徹底した経費削減策などの経営再建活動も継続的に実施した結果、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する四半期純利益を計上し、いずれも前年同四半期と比較して大幅な増益となり黒字転換いたしました。

なお、第1四半期連結会計期間より、当社グループの報告セグメントは単一セグメントに変更したため、セグメント別の記載を省略しておりますが、株式会社ソフトフロントジャパンに関連する個別の業績は、前年同四半期の「ソフトフロントジャパン関連事業」と比較すると、次のとおりとなります。

（ソフトフロントジャパン関連）

売上高は160,619千円（前年同四半期比81.1%増）、事業利益は54,949千円（前年同四半期比627.2%増）と大幅な増収増益となりました。「telmee」及び「commubo」の販売が順調に拡大していることと、当第2四半期連結会計期間は、車載機器向けソフトウェアなど市場ニーズを捉えた製品の販売が好調であったため、大幅な増収となりました。また、事業構造を見直し、人員配置の最適化や、リモートワークによる業務効率化などのコスト削減効果

により、事業利益が大幅な増益となりました。なお、「telmee」及び「commubo」はストック型ビジネスであり、受注案件の売上が毎月累積していくこととなるため、受注案件の増加により、今後の業績が堅調に推移することを見込んでおります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は311,372千円となり、前連結会計年度末に比べ35,399千円増加いたしました。これは主に、現金及び預金が12,910千円、売掛金が25,039千円増加したことによるものであります。固定資産は73,970千円となり、前連結会計年度末に比べ9,021千円増加いたしました。これは主に、無形固定資産が16,958千円増加し、投資その他の資産が8,097千円減少したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は56,503千円となり、前連結会計年度末に比べ15,173千円増加いたしました。これは主に、営業未払金が11,314千円、賞与引当金が5,000千円それぞれ増加したことによるものであります。固定負債は前連結会計年度末と同額の156,241千円となりました。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は172,599千円となり、前連結会計年度末に比べ29,247千円増加いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益21,711千円の計上により利益剰余金が増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は44.5%（前連結会計年度末は39.8%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は現在、中期経営計画に基づき、既存事業の再構築と事業基盤の強化、財務基盤の充実と戦略的な投資計画の実行、資本・業務提携の具現化に取り組んでおり、当第2四半期の業績はほぼ想定通りに推移しております。

新型コロナウイルス感染症拡大については、現時点では当社業績への影響は限定的ですが、今後につきましては極めて不透明な要因が多数存在していると認識しております。

通期の連結業績予想としましては、2020年8月13日の「2021年3月期第1四半期決算短信【日本基準】（連結）」において公表した業績予想からの変更はありません。

なお、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、投資計画の実行、資本・業務提携の具現化についてその実施時期などについて不確定な要素が多く引き続き未定とさせていただき、通期業績予想の算定が可能となった時点であらためて開示させていただきます。

また、業績予想の算定においては、新型コロナウイルス感染症の拡大により再び大規模な経済活動が制限される場合を想定しておりません。実際の業績は、様々な要因により大きく変動する可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	181,688	194,598
売掛金	64,577	89,616
その他	29,706	27,156
流動資産合計	275,972	311,372
固定資産		
有形固定資産	-	160
無形固定資産	5,144	22,102
投資その他の資産		
投資有価証券	42,789	42,789
その他	45,511	30,901
貸倒引当金	△28,496	△21,982
投資その他の資産合計	59,805	51,707
固定資産合計	64,949	73,970
資産合計	340,922	385,343
負債の部		
流動負債		
営業未払金	9,158	20,473
1年内返済予定の長期借入金	1,400	200
未払法人税等	845	1,622
賞与引当金	-	5,000
その他の引当金	87	42
その他	29,838	29,165
流動負債合計	41,329	56,503
固定負債		
債務保証損失引当金	156,241	156,241
固定負債合計	156,241	156,241
負債合計	197,570	212,744
純資産の部		
株主資本		
資本金	97,584	10,000
資本剰余金	511,732	73,824
利益剰余金	△473,505	87,796
自己株式	△64	△64
株主資本合計	135,747	171,557
新株予約権	7,604	1,042
純資産合計	143,351	172,599
負債純資産合計	340,922	385,343

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
売上高	163,013	160,619
売上原価	109,637	60,798
売上総利益	53,376	99,820
販売費及び一般管理費	164,902	89,507
営業利益又は営業損失(△)	△111,525	10,312
営業外収益		
受取利息	258	480
貸倒引当金戻入額	1,568	6,013
その他	214	79
営業外収益合計	2,041	6,573
営業外費用		
支払利息	523	8
新株予約権発行費	770	—
その他	85	7
営業外費用合計	1,379	15
経常利益又は経常損失(△)	△110,863	16,870
特別利益		
新株予約権戻入益	—	6,464
特別利益合計	—	6,464
特別損失		
固定資産除却損	4,000	—
構造改革費用	3,688	—
特別損失合計	7,688	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△118,552	23,334
法人税、住民税及び事業税	485	1,622
法人税等合計	485	1,622
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△119,037	21,711
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△119,037	21,711

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△119,037	21,711
四半期包括利益	△119,037	21,711
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△119,037	21,711
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△118,552	23,334
減価償却費	5,614	1,592
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△2,168	△6,513
その他の引当金の増減額(△は減少)	△19	4,954
受取利息及び受取配当金	△258	△480
支払利息	523	8
新株予約権発行費	770	—
株式交付費	—	△2
新株予約権戻入益	—	△6,464
固定資産除却損	4,000	—
構造改革費用	3,688	—
売上債権の増減額(△は増加)	11,272	△25,039
仕入債務の増減額(△は減少)	△5,696	11,314
前受金の増減額(△は減少)	2,274	4,288
その他	9,660	9,187
小計	△88,891	16,180
利息及び配当金の受取額	261	480
利息の支払額	△526	△8
法人税等の支払額	△835	△845
構造改革費用の支払額	△3,688	—
営業活動によるキャッシュ・フロー	△93,681	15,807
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	—	△174
無形固定資産の取得による支出	△1,500	△18,536
貸付金の回収による収入	3,062	3,014
その他	0	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,562	△15,697
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△1,400	△1,200
株式の発行による収入	12,189	14,000
その他	129	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,919	12,800
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△81,199	12,910
現金及び現金同等物の期首残高	204,998	181,688
現金及び現金同等物の四半期末残高	123,799	194,598

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度において、営業損失159,083千円、経常損失158,197千円、親会社株主に帰属する当期純損失193,147千円を計上した結果、9期連続の営業損失を計上しております。当第2四半期連結累計期間においては、営業利益10,312千円、経常利益16,870千円、親会社株主に帰属する四半期純利益21,711千円を計上し黒字転換しておりますが、通期での損失計上が発生すれば今後の手元流動性の確保に支障が生じる可能性もあることから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。このため当社グループは、早期に黒字基盤を確立することを優先課題として、以下に示す3つの施策を積極的に推進し、当社グループにおける業績回復を進めてまいります。

①既存事業の再構築と事業基盤の強化

既存事業のうち、当社のコア事業であるボイスコンピューティング事業とコミュニケーション・プラットフォーム事業に経営資源を投下し、事業を拡大してまいります。

具体的には、様々なシステム環境に電話の機能を活用にかつスピーディに組み込んでサービス提供することを可能とするクラウドサービス「telmee」の需要が自治体や各種事業者で顕在化しており、サービスの拡販に力を入れてまいります。さらに、今後の急成長分野として期待するボイスコンピューティング分野において事業展開する、自然会話AIプラットフォーム「commubo (コミュボ)」の提供により、コールセンター業務への対応、電話による営業アポイントメントの獲得、企業の代表電話の受付、テレビショッピングの注文受付など様々な利用シーンへの展開が期待され、同様にサービスの拡販に力を入れてまいります。

②財務基盤の充実と戦略的な投資計画の実行

当社グループは、不採算事業の見直し、徹底した経費削減等への取組みなど、一連の経営再建活動により業績の回復を進めてまいりましたが、引き続き、構造改革を推進し、グループ全体の効率化や合理化を図ってまいります。また、開発投資やM&A投資などで資金が必要になった場合は、柔軟な資金調達をすすめてまいります。

③資本業務提携の具現化

当社は、株式会社デジタルフォルンとの資本業務提携などにより、手元資金の確保のため資金調達を行ってまいりましたが、さらに、株式会社ジェクシードとの資本業務提携により、両社の有する製品、技術力及びノウハウを共有し、両社の顧客資産等経営資源の相互補完により売上の拡大を図るとともに、人材交流により両社のシナジーを最大化するべく、その具現化に注力してまいります。

上記の施策により、収益基盤を確保し経営の安定化を図り、当該状況が解消されると判断しておりますが、業績回復は経済環境等の影響を受け、計画通りに進捗しない可能性があることなどから、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表に反映しておりません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2020年4月1日付で、第11回新株予約権の行使を受け資本金及び資本剰余金がそれぞれ7,049千円増加しました。また、2020年8月1日付で、資本金94,633千円及び資本剰余金444,957千円をそれぞれ利益剰余金に振り替えております。この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が10,000千円、資本剰余金が73,824千円、利益剰余金が87,796千円となっております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

「II 当第2四半期連結累計期間(報告セグメントの変更等に関する事項)」に記載のとおりであります。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

当社グループは「ソフトフロントジャパン事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(報告セグメントの変更等に関する事項)

当社グループは従来、「ソフトフロントジャパン関連事業」、「AWESOME JAPAN関連事業」、「デジタルポスト関連事業」及び「ソフトフロントマーケティング関連事業」の4事業を報告セグメントとしておりましたが、第1四半期連結会計期間より「ソフトフロントジャパン関連事業」の単一セグメントに変更しております。

当社グループは、不採算事業・子会社の見直しにより、株式会社AWESOME JAPAN及びデジタルポスト株式会社は解散により既に事業活動を停止しており、また、株式会社ソフトフロントマーケティングは、販売代理店の事業方針転換により事業規模を大幅に縮小しており、実態として事業を単一として捉えることが合理的であり、単一セグメントとすることが適切であると判断しております。

この変更により、当社グループは「ソフトフロントジャパン関連事業」の単一セグメントとなることから、前第2四半期連結累計期間及び当第2四半期連結累計期間のセグメント情報を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

3. その他

継続企業の前提に関する重要事象等

P. 8 「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（継続企業の前提に関する注記）」に記載の通りです。